

私の和歌山に対する思い

グエン マイ フーン

(教育学部 日本語・日本文化研修留学生) (ベトナム)

日本に聞いてから、あっという間にもう10ヶ月経ちました。「もうそろそろ帰るんだ。」と思ったとき、私は一年間のことを振り返ってみました。一年が経って、私は何ができるようになりますか。少しでも頼りになれるでしょう。いろいろなことを学んで、成長していくと日本に来る前に私は決めました。いつもお世話をしてくれるお父さんに心配をかけないように一人前になるという目標を目指しています。その目標を果たすため、惑わず決めることを最初の一步にしました。それは私の旅の始まりでした。興味をわいたら、すぐに計画を立てて、惑わず出発します。広島原爆ドームに足を運びました。戦争の残酷さを知りながら、厳島の美しさを眺めました。北海まで足を延ばして、雪まつりを見ました。再び戻って、函館のヨーロッパの風景に驚かせて、富良野のラベンダー畑の香りに囲まれて日本の美しさが肌で感じました。日本の大都市—東京、大阪に行って、ホーチミン市の雰囲気と全然違うにぎやかさだと思いました。富士山・日本人の誇りを実際の目で見て、言葉で表現できないぐらいの美しさでした。沖縄—独特な離島にも訪れて、「ベトナムのにおい」と大変似ている空気を吸いました。



たくさんの場所に行って、たくさん眺めて、たくさん体験しました。しかし、どこ行っても、帰るとき、落ち着いて心強いと感じました。「ああ、和歌山に帰った。ただいま。」とつい言ってしまいます。「和歌山って遊ぶ所ないよ」とよく言われますが、どこでも遊ぶところだったら、どこで一休みできるのでしょうか。忙しい毎日にたまったストレスはどこで解消すればいいかと考えました。やはり静かで、穏やかなところはいいです。和歌山はそういうところだと思います。

大学で勉強した授業で留学生の私たちは街歩きというプログラムに参加して、和歌山市の JR 和歌山駅と南海和歌山市駅の周辺を歩きながらいろいろなところを紹介してもらいました。その見学の後、市の方からたくさんの質問を受けました。主なのは「どうやって観光客がたくさん来てもらう?」、「どうすれば、若者を和歌山に残してもらう?」という質問でした。私たちは若者なので、にぎやかで、遊ぶところがたくさんある大都市が好きです。そのため、私たちの提案はもっとたくさんのデパートやカラオケ屋や映画館アドを立てることでした。その時、私自身もそう思いました。「和歌山はおじいさん、おばあさんの街」というある留学生の発言に賛成した私は大阪みたい若者向けの街を作ったほうがいいと思いました。

その考えが変わる日がくるのは想像したこともありませんでした。ある日、高野口

の方に向かっている途中、めっけんもん広場を通った時、ボランティア先生が「それは野菜市場ですよ。」と教えてくれました。先生も「私自身はこういう和歌山の方が好きです。どこにもないもので、和歌山らしい和歌山でいてほしいですね。」と言いました。先生が言ってくれた言葉のおかげで、私は別の視点から和歌山を見えるようになりました。いつも最新の流行の流れに入るのは最もいいことじゃないと気が付きました。やはり持っている独特なものからはじめて、それを開発するのもいい方法ではないかと思ひ付きました。新しいものが生まれてくるのは古いものがなくなっていくわけではありません。うまく組み合わせると、古いものを維持できると思います。例えば、南海和歌山市駅の改札口のところに「白浜－熊野古道行き的高速バス」という看板を置いたら、観光客に役に立つでしょう。

私は静岡県の田舎の町を訪れたことがあります。アプト式汽車と SL 汽車を見に行きました。その辺はきれいな景色と日本唯一の汽車以外はほとんど何もありません。普通の電車は一時間で一便だけです。和歌山とはあまり変わらないと思います。しかし、観光客の数は少なくないでした。静岡の大きな駅から、詳しく案内書があるので、観光客が気楽に行けます。私と多くの観光客がアプト式汽車に乗って、きれいな景色を眺めながら、車掌さんの説明を聞きました。いろいろな情報が手に入れました。和歌山もこういう汽車があつたら、いいなと思いました。しかし、和歌山は世界遺産が2つあるのに、観光地としてあまり知られていません。和歌の浦－日本の古代からきれいな景色の中の一つであつて、果物や野菜の生産地としてたくさんのおいしい果物が取れることが知りません。日本中で有名な野菜市場のことと熊野古道や高野山の古雅な美しさが知りません。それは和歌山の損だけでなく、観光客にも残念なことです。確かにそうするだけは若者が和歌山に残すことが果たせないのですが、私自身は和歌山が大阪みたいなにぎやかな大都市になってほしくないと思います。

私にとって、和歌山は今のままでいいと思います。私はみんながつながっていて、特別な絆があると感じます。いつも面倒を見てくれる人がいるので、安心して日々を送れる場所です。自然に囲まれて、忙しい日々のストレスが解消できる場所です。そういう和歌山が大好きです。旅に出ても、戻る場所がある心強さを感じます。帰るとき、待っていて、自分の帰りが歓迎してくれる人がいて、自分の居場所と言えます。和歌山－「家」と呼んでいる場所です。